やっぱり平和はいいな〜

長久手中学校二年　齋藤　楓馬

昭和20年8月6日午前8時15分、広島に一つの原子爆弾が落とされ、20万人もの方々が犠牲になりました。かろうじて生き残った人も、心と体に大きな痛手を受け、今もなお苦しんでいます。

そんなつらい体験をした広島に私たち長久手市内の中学生16名は、戦争（原爆）の悲惨さを知り平和の尊さについて考えるために行ってきました。

1日目は、市役所に集合し、市長と平和事業推進委員会委員長のあいさつがあり、市公用バスで出発。途中新幹線に乗り換えて一気に広島へ。

広島に着いたら、路面電車である市電に初めて乗り移動しました。そして、広島平和記念資料館に入りました。広島平和記念資料館では、原子爆弾の開発から投下に至った経緯や戦時下の広島、原爆の被害を物語る生の資

20×20

料を見ました。見学が短い時間だったので、細かいところは見られませんでしたが、「原爆ってとても恐ろしいもの」ということが分かりました。

続いて国立広島原爆死没者追悼平和祈念館を訪れ、被爆者の方に原爆が投下された時とその後についてお話を聞いて、より理解を深めました。

二日目は、まず原爆ドームを見ました。幻想的でとてもこの世にあるものとは思えませんでした。次に原爆の子の像の鐘を鳴らした後、そばにある千羽鶴置き場に千羽の鶴をかけました。他の人がたくさん持って来ていたので自分たちの分が少なく感じましたが。

そして最後に、よくテレビで目にする原爆死没者慰霊碑で亡くなった方々の気持ちを想像しました。

「やっぱり平和はいいな〜」これはこの時思ったことです。

20 × 20